

第 51 回

社会貢献者の記録



公益財団法人
社会貢献
支援財団

第51回

社会貢献者の記録

目次

| | |
|--------------|-----|
| 表彰選考委員プロフィール | 004 |
| 式典次第 | 005 |
| 会長挨拶 | 006 |
| 表彰選考委員長挨拶 | 008 |
| 受賞者代表挨拶 | 010 |
| 記念写真 | 012 |
| 表彰式スナップ写真 | 014 |
| 来賓祝辞 | 022 |
| 祝賀会スナップ写真 | 024 |
| 社会貢献者表彰とは | 028 |
| 受賞者手記 目次 | 029 |
| 人命救助の功績 | 031 |
| 社会貢献の功績 | 049 |
| 資料編 | 114 |

表彰選考委員プロフィール

委員長



脚本家 東北大学相撲部総監督

内館 牧子

東京都教育委員会 教育委員ほか

脚本：「ひらり」「てやんでえッ!」「私の青空」「毛利元就」「エイジハラメント」ほか多数

著書：「終わった人」ほか多数

委員



元国税庁長官

大武 健一郎

関西大学客員教授 認定 NPO 法人ベトナム簿記普及推進協議会理事長

著書：「平成の税・財政の歩みと21世紀の国家戦略」「税財政の本道— 国のかたちをみすえて」ほか多数

委員



産経新聞 東京本社 編集局 副編集長

小川 記代子

委員



久米繊維工業株式会社 取締役会長

久米 信行

著書：「メール道」「ブログ道」(NTT 出版)「NPO のための IT 活用講座 効果が上がる情報発信術」「すぐやる人だけがチャンスを手に入れる」ほか

委員



ノンフィクション作家

吉永 みち子

「羽鳥慎一 モーニングショー」コメンテーター

「あさチャン! サタデー」コメンテーター

著書：「気がつけば騎手の女房」「性同一性障害」「26の生きざま」「老いの世も目線を変えれば面白い」「試練は女のダイヤモンド」ほか多数

式典次第

第一部 表彰式

10：30…開 式

- ・ 会長挨拶
- ・ 表彰選考委員長挨拶
- ・ 表彰状並びに副賞の贈呈
- ・ 受賞者代表挨拶

12：20…閉 会

第二部 祝賀会

12：30…開 宴

- ・ 来賓祝辞
- ・ 乾杯のご発声

13：30…閉 宴

(2018年11月26日 於帝国ホテル東京)

会長挨拶

皆様おはようございます。

社会貢献支援財団の会長を務めさせていただいております
安倍昭恵でございます。

本日は500名以上の皆様にご臨席をいただきまして、第51
回の社会貢献者表彰式典を開催できますことを大変喜ばし
く、また本式典の開催にあたりまして、ご支援いただいで
おります日本財団はじめ、候補者を推薦くださいました皆様、
そして関係の各位には心よりお礼申し上げます。



本日は選考委員会におきまして選考された人命救助の功績8件、社会貢献の功績32
件の計40件の活動の表彰をさせていただきます。

人命救助は、海難、水難、火災、交通事故などから自らの身命の危険を冒して救助
された方、社会貢献は日本国内そして海外において献身的に活動されている方々で
ございます。

受賞者の皆様、そしてその活動を支えていらっしゃいますご家族はじめ関係者の皆
様に、心から敬意を表しますとともに心からお祝いを述べさせていただきます。

さて私も過去の受賞者の方の活動の現場にお邪魔させていただいておりますが、今
年8月に障がい児の積極的な活動を支援する北海道の「にわとりクラブ」が平成9年
度から毎年全道各地で開催されています「いけませフェス2018 in あつま」にお邪魔
させていただきました。「にわとりクラブ」は、「めんどくさいわ」「いやだわ」の
二つの「わ」を取り除き、障がい児が積極的な活動をする、「いけませ」の「ませ」
は混ぜこぜのませで、障がいのある者も、ない者も共に混ぜて生きている社会をつ
くることを目指すという2つをキーワードに活動されています。

全道各地の障がいのある子どもやその家族、そしてサポーターや一般参加者が総勢
1,500人程が一堂に会して多彩に交流するイベントですが、地元ボランティアの協力
のもと、参加者がお互いに助け合って生きるという様子が実感できる一日となりまし
た。

またあわせて、北海道で活動されています、わが国で唯一の精神障害者回復者の当
事者だけで運営されている団体「精神障害者回復者クラブすみれ会」そして病気や障
がいを持つ子どもたちに本を届けられている「ふきのとう文庫」の活動の現場へも
お邪魔させていただきましたが、弱視の子どもたちのための大きな文字の絵本や、フェ

ルトで作られた触れて遊ぶ本を手作りされるボランティアの方々にお会いして感動いたした次第です。

本日の人命救助と社会貢献の功績での受賞者の皆様も、活動の内容は違って、よりよい社会づくりに貢献されている方々でございます。

皆様方には、活動を続けられるにあたり、日々色々な壁が立ちはだかる事もおありでしょうが、これからも末永く活動を続けていただき、わが国が誰にとりましても住みやすい国になりますようお力をお貸しくくださいますようお願い申し上げます。

本日ご列席の皆様のご健勝と一層のご活躍を祈念申しあげ、私の挨拶とさせていただきます。

受賞者の皆様、本当におめでとうございました。そしてありがとうございました。

公益財団法人 社会貢献支援財団
会長 安倍昭恵

表彰選考委員長挨拶(代読)

本日は皆様お忙しいところを、このようにお集まりいただき、盛大に第51回表彰式典を開催できます喜び、有難く思っております。

今回は126件の推薦の中から、人命救助の功績8件、社会貢献の功績32件を選考させていただきました。

人命救助の8件につきましては、自らの命を危険にさらしながらも、他を救助された皆様です。その中で最年少の山口峻(やまぐち たかし)さんは高校時代に3回の人命救助をされています。

社会貢献の32件につきましては、国内26件、海外6件でいずれも他人のため社会のために献身的に尽くされている方々です。この社会貢献部門は、行政の施策が行き届かない狭間に、放っておけないとした民間が手を差しのべる、そこから活動が始まる、という傾向も見とれます。

例えば、このほど、国会では外国人労働者の受け入れ拡大の入管法改正案が審議されております。現在、すでに128万人と発表される外国人労働者の数ですが、例えば「関西生命線」の活動、横浜の「信愛塾」の活動は、在日中国人や外国人を支えています。それはいのちの電話であったり、学習支援であったり、多岐にわたっています。

また、東京の「ブラジル人労働者支援センター」は、中南米への移住経験のある早稲田大学OBが中心となり、ブラジルや中南米からの労働者をサポートしています。ああ、こんな形での集まり方もあるのだなと、私はとても印象的でした。

また、笠原五郎さんは今年98歳になられた方ですが、昭和50年代後半から、中国からの帰国者のために、身元保証人となっておられます。旧厚生省時代から役所にかかけあい、すでに100人以上の保証人となり、また日本語を教えておられます。

さらに、森口エミリオ秀幸さんは親子三代にわたって、ブラジルで医療活動をなさっています。後ほど森口さんからお話があると思いますが、ブラジルは世界最大の日系人居住地で、現在は160万人の日系人が暮らしています。過去、彼らは長年にわたり山奥の日系人入植地で暮らしてきたため、ポルトガル語が話せず、一般病院で診察を受けられない状況にありました。森口さんのお祖父様は外務省の嘱託医としてブラジルに派遣されたのですが、そのままブラジル残り、実に昭和5年くらいから彼らのために医療活動を始められました。それは息子、孫へと引き継がれ90年にわたる活動を



代読 選考委員 吉永みち子

続けておられます。孫の森口エミリオ秀幸さんは、冬になると本業をストップして医療機器を積み込んだバスで巡回診療を続けておられます。費用も森口さんが負担し、これはいかに生きとし生きる者すべてへの愛情が深いかを物語っていると思います。

ここにお集まりの40件の受賞者はもとより、推薦いただいた126件の皆様様に心から御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

また、曾野綾子元選考委員長は、いつもこの場でおっしゃっておられました。

「副賞のお金は、ぜひご自分やグループのために、私的にお使いください」ということです。「好きなお洋服を買ったり、グループで温泉旅行に出かけたりしていただきたい」と毎回おっしゃっておられました。後を継いだ私も曾野元委員長の言葉として、毎回この場でお伝えするのですが、必ず「自分のためなんかに使えません」と反論されます。

そんな中、つい先日読んでいた雑誌で、とても興味深い文章を読みました。ある国立大学の名誉教授がふるさと納税について書かれたものです。ふるさと納税は、返礼品目当てになっていると問題にした前総務大臣を中心に、返礼品金額の上限を決めようという一件についてです。

名誉教授は、それは愚かなことだとし、寄付に対する日本人感覚が全く分かっていないと書きます。キリスト教徒の場合、無償で名誉も明らかにせずに行われる。しかし、日本人の場合、神社の石製の玉垣にはすべて寄付者の氏名が彫り込まれており、その他多くの場合、無名の寄付ではないと書きます。ふるさと納税で返礼品を受け取ったのは何ら恥ずることではなく、正常であり、こうした日本人感覚を無視して、無名無償の寄付要求をしては、あっという間に崩壊するであろう、と書いていました。

もちろん、ふるさと納税とこの賞は一緒にできませんが、ここにお集まりの皆様は長きにわたって無名無償で支援活動をなさってきた方々ばかりです。であればこそ、副賞のお金は返礼としてお好きなようにお使いください。

何よりもクリスチャンである曾野綾子元委員長がおっしゃったことに、私は意味を感じます。お好きに使っていただき、それが活動を続けるモチベーションになれば、当財団としてもこんなにうれしいことはありません。

これからも、どうぞ宜しく願い申し上げます。

公益財団法人 社会貢献支援財団
選考委員長 内 館 牧 子

受賞者代表挨拶

ブラジルで日本人永住者の巡回診療を行っております森口でございます。

受賞者を代表いたしましてご挨拶をさせていただきます。

本日はこのような光栄な賞を社会貢献支援財団から授与いただき、受賞代表者として深く御礼申し上げます。ありがとうございます。

今年には日本人のブラジルへの移民が1908年に始まってから110周年の年となり、ブラジル各地で記念の行事が盛大に行われています。現在では日本人移民の一世をはじめ二世、三世と世代が進み6世も誕生していますが、それら日系人の数は190万人に達し、日本の次に日本人の多い国となっています。今一世の数は全日系人人口の12%、まだ20万人近くが健在で、多くの方は移民計画初期の頃に農業移民で渡伯し、慣れない環境の中、大変な苦勞をされた方々がほとんどです。そんな中、多くの方はご自分は不自由をしながらも、お子さんにはしっかりとした教育を授け、そのおかげで日系人のブラジルでの信用は非常に高く、各分野で大勢の日系人が活躍しています。

私の祖父、細江静男がブラジルに移住した日本人、日系人への巡回診療を1930年に始めて90年近くが過ぎようとしています。祖父はブラジル全土の日本人移住地を回り、1975年に亡くなるまで日本人移住者たちの健康を守るためにその一生を捧げて尽くし、ブラジルのシュヴァイツァーとも呼ばれていました。子どものころサンパウロ近辺の巡回診療に何度か同行し、昼間は一人一人に心を砕く丁寧な診察、夜はその地域の人々を集めての教育講演と、地方の無医地区の日本人移住者のために頑張る逞しい祖父の姿を目の当たりにし、それが今でも私にとっての理想の医師像としてこの道へと進ませた何よりの理由でした。祖父が亡くなった後は、父、森口幸雄がブラジル南部（リオグランデ・ド・スール州、サンタ・カタリーナ州）の巡回診療を続ける事になり、私も10数年前から第三代目の巡回診療医として仕事を引き継がせていただいております。毎年、日本全土を越す面積を巡って、移住者の方たちの健康管理、疾患予防そして治療という三大責任を背負い、現場で9割近くを解決しながらの毎年のボランティア行事です。今年も、計3,500km以上の距離を移動しながら、400人近くの患者さんたちを診察させていただきました。特に、最近はお嫁ぎ者の留守を守る孤老の方が多く、高齢者施設や介護サービスにまで行政の手が回らない当ブラジルにおいて、



これらの高齢者の方が病気になった際のケアが大きな問題となりつつあります。この巡回診療を必要としている日系移住者の方たちの健康管理・疾患予防のみならず、移住地での介護のための教育・指導を何らかの形で取り入れることを真剣に考える時期が来ていると痛感しています。これは私一人の力では限度があります。少しずつでも近い将来に向けて、この巡回診療を「診療のための巡回診療」から「移住者の方々が人生の最後のときを幸せに過ごすことができるためのお手伝いの巡回診療」へ、と発展させていけたらというのが、私の巡回診療を通じての日系移住者の方々に寄せる思いです。

当然、巡回診療を行うのは私一人ではありません。各植民地、特に僻地に在住なさっている永住者の方達を訪問するために欠かせない巡回診療バスを、草の根支援を通し提供して下さった日本国民の皆様、巡回診療実行のために必要な経費をクラウドファンディングを通しサポートしてくださっている皆様、日本から毎年ボランティアとして参加してくださっている横浜市大及び防衛医大の先生と学生の皆様、JICA、地元でお手伝いしてくださっているボランティアの皆様、そしてこれらすべてのサポートを取りまとめ、スケジュールの組み立てや各移住地への連絡から始まり、すべての手配を整えてくれる南日伯援護協会のスタッフの方々に、永住者の方達を代表して、心より感謝申し上げます。

私は今、40件の受賞者の方達を代表して挨拶させていただいておりますが、皆様のお話を聞きながら、本当に色々な分野で色々な方が頑張られているのだなと思えました。この会に出席するまでは知らなかった、こんな活動をしている方がいらっしゃるのだという方が大勢いらっしゃいます。そのような皆さんのお話しをお聞きしているうちに、一つ感じた事があります。それぞれの方が様々な形で他人を思い、心配し、そして必要としている方に力を貸してその人に幸せになってもらいたいと、心から願っていらっしゃるということです。必要としている人の笑顔が見たい、安心した顔が見たい、幸せになってもらいたいと願うこのような方達がどんどん増えていくことで、世界は良くなって行くのだと感じています。そしてこのような活動を評価し、さらに世の中に広め伝える機会を与えて下さるこの社会貢献者表彰の重要性を改めて認識いたしました。







今回、私たちのように何らかの形で社会貢献及び人命救助にかかわって活動をしている個人又は団体を認めてくださり、第51回社会貢献者表彰受賞式を開催して下さった社会貢献支援財団の方々に心から感謝申し上げます。

本日は本当にありがとうございました。

森口エミリオ秀幸

記念写真



| | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|----------|
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  | |
| 石井 幹人 | 上田 芳賢 | 日原 拓哉 | 鈴木 隆彦 | 安倍 昭恵 <small>会長</small> | 池田 恵菜 | 池田 結人 | 池田 光広 | 鈴木 雄介 | 山口 峻 | 竹澤 匠平 |

第51回 社会貢献者表彰式典

公益財団法人社会貢献支援財団

Supported by THE AMBITION
THE EDUCATION



ゆいネット北海道
堀本 江美
人身取引被害者サポートセンター
ライトハウス
藤原 志帆子
被害者支援ネットワーク佐賀
V.O.S.S
香月 博子
わたりクリーンヘルソロジーエクト
嘉藤 一夫
みやぎ発達障害サポートネット
相馬 潤子
石巻復興きずな新聞舎
岩元 暁子
公文 和子
小松 みゆき
渡辺 由美子
キリストア
ひろはた自衛 相談室
内田 克代
チェンジングライフ
野田 詠氏

京都府学生保護女性連盟
齋藤 常子
伊藤 みどり
関西生命線
竹川 真理子
信濃塾
おかやま居 支援センター
岩田 弘明
森口 エミリオ
秀幸
鶴田 桃工
NABA
相田 祐弘
加藤 仁紀
NAGO
ブラジル人労働者支援センター
早大防災教育支援会
有西 希海

山口 和宏
横井 敦子
笠原 五郎
若松地域給食ボランティア
小林 真弓
大谷 順子
安倍 昭恵
金良
庄保 共子
NABAの里
檜尾 睦
むつみ日本館
岩田 亮子
牧野 博子
高知子どもの図書館
古川 佳代子

表彰式

















来賓祝辞

まずもって長年のご労苦が報いられて表彰された皆様方のご活動に、心から祝意と同時に尊敬申し上げたいと思います。

ご高承の方もいらっしゃると思いますが、日本財団は、今日表彰された方は勿論、ここにお集まりの皆様方のように、社会のために志高くご活躍をなさっている皆様方をご支援することも重要な仕事でございますので、皆様方のご活動の中で日本財団の協力が必要だということがございましたら、遠慮なく連絡いただきたいと思います。



今日はブラジルの巡回医療をなさっている先生の表彰もございましたが、日本財団は海外にいらっしゃる日系人の支援活動も大きな柱の一つで、南米、東南アジアなど、現地に移住された方々のための支援活動は、日系の若人の日本への留学から始まり、現地でお年を取られた方々の施設作り、あるいは病院作りということもやっておりますので、遠慮なくお話をいただきたいと思います。

戦後73年が過ぎ、皆様方のご努力によって日本は素晴らしい国づくりに成功したことは間違いございません。しかし少し現況を見れば、成熟した我が国におきましても、ともすれば国民の権利の主張が強くなりすぎ、政治家は国民を満足させるための仕事に奔走しすぎたため、様々な問題が出て参りました。

すでに1,100兆円を超える財政赤字が生じたのも、国民があまりにも権利の主張をしたがため、そういう中で皆様方のように、身の周りの社会課題に気づき、それを解決しようということ、第一歩を踏み出し活動され、それらを日本中に広げていくことが健全な日本国を反映させる大きな力になるわけです。皆様方は目立たない活動だと思っていられるかもしれませんが、安倍昭恵会長をはじめ、皆様方の活動をちゃんと評価し、見守っている人が社会にはたくさんいることにお気づきいただき、良い安全・安心な日本の伝統的な社会を世界のモデルにしていくための主導者であられることをご理解いただきたいと思います。

社会貢献支援財団の安倍会長の活発な指導力により、特に海外で活躍する方々への評価も始まりましたし、御自ら現場を見ていらっしゃることも先ほどのビデオでご覧になったとおりです。日本人の人を思う心、人に対する愛情、そしてより良い社会をつくろうという志が盛り上がっていくことにより、これがまた政治と相まってこの素晴らしい日本国というのが今や世界的に評価を受けているわけです。

世界で76%を超える人たちが現在の生活に満足しているという国は、日本を除いて世界にはありません。しかし我々はそれだけで満足するわけにはいきません。先ほど申しましたように、様々な社会問題も生じておりますので、これは国家だけ、政府行

政だけでは解決できません。どうか皆様方のご活動をさらに幅広く広げていただくことによって、政府の政策だけでなく、我々国民一人ひとりも権利の裏には義務があることを自覚し、本来日本人が持っている心の優しさを多くの人たちが共有することによって、さらに世界から評価される素晴らしい日本国が誕生するのではないかと考えております。

皆様方の活動がさらに広がること、そして今まで参加していなかった方々がこのような活動に参加していただけるようご協力をいただきたいと同時に、ご相談事がございましたら、日本財団をご活用いただくことが、我々にとって大変ありがたいことです。

今まで我々は、例えば、恵まれない子どもたちを救済するため、今45,000人いると言われておりますが、26年振りに社会福祉法の改正をお願いして、恵まれない子どもたちが施設で生活するのではなく、幼い子どもの生活は家庭が世界でございますので、養子縁組制度をさらに活発化する、養子縁組を増やすというようなことを進めています。

また先般は、耳の聞こえない方々が電話を利用するための「電話リレーサービス」というのがあるのですが、国に働きかけてもなかなか進みませんので、先駆的に日本財団が6年間行ってきました。その間、山や海で遭難したろう者7人を救助することが出来ました。諸外国では国がやっていることですので、今後は国でやっていただけるようなモデルをつくり、行政に気付いていただきたいと思っております。

日本は一億総活躍社会を目指しておりますが、罪を犯した方々も社会に出て活動したいという気持ちが大変強いのです。これも法務省にお話申し上げ、刑務所や少年院とタイアップして、彼らが社会に出てきちっと働けるような仕組みのモデルケース作りに協力をさせていただいています。

皆様方の活動の中からよりよい社会をつくるためのルールづくりや、73年間続いてきた社会の仕組み、構造も変えていく必要があるのではないかと私は思っておりますが、それは皆様方の活動からヒントが生まれてくるわけです。どうか日本がより良い明るい未来を次の世代に贈るため、皆様方のさらなる活動をお願いしたいと思いますし、日本財団もお手伝いをさせていただきたいと願っております。

皆様、本日は本当におめでとうございます。また社会貢献支援財団の安倍会長はじめ理事評議員の皆様、そして厳正な審査をしてくださいました選考委員の方々のご労苦、そしてご参会の皆様のご健勝をお互いに祝しながら、より良い明るく安心安全な日本をつくるために、或いはまた海外で活躍していただいている今日表彰された皆様方もそれぞれの国で大いに力を発揮していただけますように、頑張ってください。

おめでとうございます。乾杯！

公益財団法人 日本財団
会長 笹川陽平

祝賀会







